

WINE

Magazine

英誌 WINE と提携
月刊 the HOTEL 4月号別冊
1999 vol.4
1200 yen

綴込別冊
チリワイン
Chile Wine
Perfect Guide Book

特集
ブルゴーニュ
21世紀を担う造り手たち。
ポルトガル

ポルトガル縦断。





昨日の朝ミラノから飛んで来たという。そしてあの長大な作品を見事にこなすという超人的なエネルギーには驚く。今後このオペラは欧米を回り、その後の日本公演が決まっている。日本での公演時にどのようにになっているか楽しみである。

翌日はパリで知り合ったChang Tsong-Zung氏の現代美術のHanart Tz Galleryのオープニングに行ったりしているうちに『リア』の舞台を観劇する時間となった。このリアの舞台を製作したのは日本国際交流基金アジアセンターで、演出はシンガポールのOngkengsen。脚本は日本を代表する岸田理生、作曲はインドネシアのRahayn Supanggahなどとアジアの才能が結集された作品である。私は西洋に住みその文化に触れ、その素晴らしさを大変評価していると同時に、東洋の血を誇りに思っているので、このような試みはうれしい限りで

期待に心がはずんでいた。特に主役である能役者の梅若猶彦と中国の京劇スター、江其虎の共演は極めて興味深いものであった。終演後は余韻を楽しむというより、高まっている気を放出しようということで、香港のVIPの集うグランドハイアットのクラブ「JJ'S」で友人たちと飲み笑い一夜を楽しんだ。

翌日、ユデル氏とホテル内のイタリアンレストラン「グリッシーニ」でランチを取る。3食中国料理を好む私も、このレストランのワインリストと本格的なミラネーゼの料理には納得する。

気分転換をしたいと思った時、気がつくとバースポートだけ持つて香港に来ている。それぐらい隣の町にでも行くように気軽にかけて、こんなに楽しめる場所はないし今回も強く実感した。私の香港好きはいつまでも続くだろう。

香港から 世界の空へ

香港、アジア、世界をおふ
キヤセイパシフィック航空



The Heart of Asia

キヤセイパシフィック航空が機内でお客さまにサービスするお食事は年間約1400万食、ワインの数は7500ボトルに及びます。機内でサービスされるワインは約20種類。フランスワインを中心にお客さまのご要望に応じて、詳細ごとにイタリア、スペイン、ドイツ、南アフリカ、オーストラリア、アメリカ、ニュージーランド、チリなど広く取り揃えています。キヤセイパシフィック航空のワインセレクションにおける高い評価は、機内各ワイン専門誌「アチャンター」が選定するキアライン・ワインリスト・アワードでベスト・エコノミークラス・ワイン賞やベスト・ビジネスクラス・ワイン賞を年々に渡り受賞していることにも現れています。また、機内販売においても高品質なおワインを提供しております。お客様からも好評をいただいています。最後に、さらに香港や他のアジア諸国をはじめヨーロッパ、オセアニア、中東などへおは旅の際に「The Heart of Asia」キヤセイパシフィック航空をご利用ください。



CATHAY PACIFIC

<http://www.japan.cathaypacific.com>



文=矢幡聰子
text by Satoko Yahata
写真=伊藤信太郎
photographs by Sintaro Ito

新春早々の旅先は、うれしいことに香港であった。リラックスのためや親友たちの顔を見に行くためだけではなく、1月15日から2月13日の間開催している第27回「香港芸術祭」を視察観劇する4日間である。昨年、芸術祭の理事長であり、日本と香港の懸け橋となって数々の役職を務めているマーティン・バロー氏からぜひ芸術祭へとお招きがあつて実現した。

新しい顔ともいえる、モダンで未来都市を想像させる香港新国際空港にキャセイ航空で降り立ち、宿泊先のグランドハイアットホテルへ向かう。ホテルにリムジンが着きドアが開くと、目の前で出迎えてくれたのは総支

配人のデヴィッド・ユデル氏。彼は東京のパークハイアットオープン当時、総支配人だったときからの知人で、誰もが認める大変な実力の持ち主。東京から香港のグランドハイアットに異動したのも、ホテル活性化のためだと聞いている。東京のパークハイアットを手掛けたデザイナーが今回部屋の改装をしたと聞いて楽しみにしていたが、シンプルでシック、洗練されていて、特にライティングが素晴らしい。

着いた晩、香港芸術祭の今年の目玉であり、香港始まって以来の出演者総勢250人のオペラ、チャイコフスキーの『スペードのク

Unforgettable Hong Kong 1999

イーン』のオープニングを観劇する。私にとってこの演目の主役は、舞台上の歌手たちというよりも、音楽監督であり指揮者でもあるValery Gergievである。彼はセント・ピータースブルグのマリン斯基劇場の音楽芸術監督、首席指揮者として現在、世界で最も注目されているマエストロである。昨年暮れに

日本でのコンサートを聴いて魅かれていた。4時間という長大なもので、舞台美術もシンプル、アリアも特に知られてはいない。1幕目では最後まで見るのは疲れる

のではないかと心配していたが、彼のオーケストラとリサ役のソプラノ、Galina Gorchakovaの美声のおかげで2幕、3幕と盛り上がり素晴らしい舞台となり聴衆も熱気にあふれていた。終演後、ホテルに戻りシャンパン・バーでおいしい『グラン・ダム』を開けて至福の時間を過ごす。

翌日はマーティン・バロー氏の自宅でのランチパーティーに招待された。東洋と西洋の精髄を調和させた邸宅のパティオで、明るい陽差しを浴びながらのおいしい食事。マエストロ、Gergievをはじめゲルマン役のYuri Marustin、今回のディレクター、Alexander Galybin、香港のトップヒットメーカー、Calvin Poonなどと同席する機会に恵まれた。実はマエストロは、昨晩の公演のために

矢幡聰子

CORE S LTD.代表取締役
聖心女子学院大学卒業後、
イスラエル、フランスへ留学。
欧洲国道本部、小谷正一
事務所を経て CORE S
LTD.を設立。主な仕事は
国際文化交流事業企画運営、
最近はPRコンサルタント、衛星TVのプロデュ
ーサー、エッセイストとして
も活躍している

